

事業所名 グループホーム本棟
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 2月 2日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 民間教育機関講師
資格・経験 介護支援専門員、ホームヘルパー2級
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 社会福祉士、介護支援専門員、ホームヘルパー2級

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの一環の方針として「身体にいいこと！」を念頭に、特に食生活には重点をおいている。日々の料理にはこだわりを持ち、入居者の希望に沿って毎日新鮮な魚と自然の野菜をふんだんに取り入れたメニューとなっている。 ・入居者・職員ともにタイムスケジュールに追われることなく、一緒に生活をしながら人と人の関わりのなかでの介護サービスの提供を志しており、「認知症」という疾患を生活の面から理解し入居者と向かいあって介護する姿勢が感じられた。 ・入居者一人ひとりのその人らしく生活しようとする「思い」に応える介護を目指し、一人ひとりに寄り添った「家庭生活」の延長線上の介護サービスが行われている。 ・「家族や自分が将来安心して過ごせるホーム」を目指しており、日常生活の安心と安全の確保に努めている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような増づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活を意識したリビングルームは日当たりがよく(床暖房完備)、天窓があり自然光による採光ができています。木造建築と自然な明るさが「家庭」そのものの雰囲気をかもし出し入居者が落ち着ける空間であった。 ・衛生環境に特に配慮されており生活臭などは全く無く、気をつけて清掃を行っている効果が現れていた。 ・居室・玄関などの生活空間に施錠されたところは無く入居者が管理されているという拘束感は全く受けなかった。またスケジュールにとらわれることなく、その日その日に応じた時間の流れを尊重し入居者は束縛されず自由に生活できる雰囲気であった。日々の穏やかな生活により入居者の表情は皆温和で落ち着いていた。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

調評
<p>全体を通して特に良いと思われる点など(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者を先頭に職員全員がグループホームの目的を理解したうえで、介護理論をもって介護・接遇に取り組んでいる。職員が日常業務において、馴れ合いでなく自然な見守りを行いながら入居者と共同生活をしている印象を受けとることができた。 ・立地(矢掛街道の町並み)条件を考え、ホームと周囲の環境がとてもしっかりとした建築物となっている。木造平屋建て建築は昔ながらの日本の住居を思わせると同時に、木の温もりが「癒し」の効果を与えている。入居者の五感を適度に刺激できるように広い敷地内には家庭菜園やウッドデッキを備え、各ユニットのリビングからの出入りもできるようなって開放感がある。 ・リビングには天窓があり自然光が採光され明るい雰囲気を保たれている。ピアノやソファのほか畳スペースが設置され、レクリエーションを楽しむほか個人がゆったりと過ごす空間も確保できるようになっている。また各居室は7.5畳と広く、家具の配置など入居者本位に設定されておりそれぞれの個性が感じられる。 ・各書類の書式・記録がしっかりしており、必要書類のファイリングもきちんとなされていることにより全ての職員が情報を共有できる環境が整っているため全員が同じ方向を目指した介護サービスの提供が実践できている。書類の記載内容が日々検討され工夫を重ねており、より質の高い介護サービスの提供を目指した向上心も伺える。 ・入居者の生活の「安全」と「安心」に特に配慮され、衛生環境の充実が徹底されている。居室・共有スペース全てに空気清浄(殺菌)器が設置されている。飲料水にはアルカリイオン水・入浴には衛生水(強酸性水)を入れて使用する徹底した取り組みである。防災・防火対策にも取り組み消防署の協力を得て職員の救命救急講習を実施するほか、緊急時の救命道具も備品として備えている。昼夜の避難訓練も実施されており、また、もしもの場合には近隣(町内自治会)の協力を得られるような体制を整えている。 ・新鮮な食材・多様なメニューはもちろん食器にもこだわり、人間の健康を支える「食べる」ことを楽しみながら促進できる工夫を凝らしている。食事は満ち度であるが盛り付けも手くできており、「見て楽しむ」ことの出来る食卓であった。 ・デイサービスが併設されており外部の利用者との交流も盛んで、入居者は活気にあふれている。 <p>特に改善の余地があると思われる点(記述)</p> <p>ホーム自身の自主評価でも取り上げられていたが、「家族会」の設置を今後の検討課題としている。(現在は家族からの要望や必要性を踏まえ前向きに検討中であるとのこと。)また、定期的な「ホーム便り」などの発行も準備段階であるとのこと。ただし、随時それに代わる写メールの配信による情報提供はすでに行われていることは加筆しておきたい。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の安診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの生活歴・職歴を把握した上でプライドを損なわないように配慮し、残存能力を活かしながら「やりがい」と「達成感」の感じられる日常生活を支援していた。 ・各居室のガラス扉に、和紙などに切り絵を施した目隠しをあしらったインテリアを兼ねたプライバシーの保護のための工夫が見られた。必要時には見守りも確保できる素晴らしいアイデアであった。 ・個人情報保護の観点から新聞取材などの際には入居者個人が特定できないように正面の顔写真の撮影は遠慮してもらうなどの配慮がなされている。 ・入居者に対する援助方法や言葉掛けについても、決して入居者を否定することなく受け入れた上で、さりげない援助にて行動を促し、自立支援につなげている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者を中心にも職員間の信頼関係を構築し、お互いが連携をとり質の高い介護サービスの提供に努めている。 ・職員の研修参加を積極的にに行い、外部研修・内部研修(ミーティング)を通じて相互の研鑽を行っている。職員の資格取得なども支援し、個人個人の向上心を養っている。 ・事故の事前防止に取り組み、ホーム内での「事故対策委員会」を設置するなど入居者の安心と安全には特に配慮されている。事故発生の場合には「事故発生記録兼対策検討票」を作成し、今後の発生防止に役立させている。 ・現状に満足することなくより良い介護を目指してサービスのあり方を常に改善していこうとしている姿勢がみられる。 ・地域ケア会議に参加し、より地域密着型の地域ケアを支えるサービス事業者としての役割を担うホームを目指している。 		